

号外

水稻・ジャンボタニシ大量発生に注意！

J A 京都中央 2024年5月13日



営農ウィークリーNEWS



水稻苗を捕食するジャンボタニシ

スクミリンゴガイ（ジャンボタニシ）は、近年、生息地域の拡大とともに被害が多く発生しています。

近年では、2020年産米で、管内の西南部地域を中心に植付け時より、ジャンボタニシによる食害の被害が例年にない程の被害が多く発生しました。1980年代に食用目的で日本に導入されたスクミリンゴガイ（通称ジャンボタニシ）は野生化し、基本的に柔らかい葉を好んで食べ、移植直後のイネで食害による欠株の被害が発生します。

被害状況の特徴ですが、田植え後20日までのイネが柔らかい時期に集中しており、水温が高くなるほど活動が活発になり被害が増加します。

また、深水になる田面の低い箇所やマクラ周辺に被害が目立ち、大型になるほど食害量は大きくなります。**今年は、暖冬の影響により、越冬個体も多く、特に被害が多発することが予想されます。**

毎年被害が発生するほ場では、移植直後に防除薬剤の「スクミノン粒剤」を散布してください。「スクミノン粒剤」の散布は、湛水状態で、ほ場の発生状況に応じて、ほ場全面に均一散布、深水部分への局所的な散布、額縁散布などを行ってください。また、確実な効果を得るため散布後、少なくとも3～4日間は湛水状態（水深3～5cm）を保ち、魚類、甲殻類等に影響が出ないように7日間は落水、かけ流しはしないようにしてください。



ジャンボタニシの食害による被害ほ場



ジャンボタニシの食害による被害ほ場



ジャンボタニシの卵塊

被害を防ぐポイント！

- ① 広げない（越冬個体を少なく）
- ② 入れない（ほ場への侵入を防ぐ）
- ③ 食べさせない（稲に寄り掛けさせない）

※注意してください！

貝は、寄生虫を持っている場合がありますので、素手では触れないようにしてください。卵塊（ピンク色）は、水中で呼吸できないため水中に落とすだけで殺卵ができます。

分類	使用可否
一般米	可 ○
飼料米	可 ○
WCS	可 ○

誘引! 摂食! 速効的!

殺虫剤

スクミノン[®]

メタアルデヒド粒剤



WCS (稲発酵粗飼料) に使用可能!



田植え同時処理でも!



ドローン散布でも! (無人航空機による散布の登録を取得)



商品説明と田植え同時処理の事例を動画で説明しておりますので、ぜひご覧になってください。➔



散布から効果発現まで



①誘引

スクミノンを餌と思い近づきます。



②摂食

スクミノンを食べます。



③効果発現

数分で麻痺が起こり、殻の中に閉じこもります。



④致死

約1日後に致死します。

スクミノンを食べると数分で麻痺が起こり、稲を摂食しなくなります。

■適用害虫名及び使用方法

2021年12月8日現在の登録内容

作物名	適用害虫名	10アール当り 使用量	使用時期	本剤の 使用回数	使用方法	メタアルデヒドを含む 農薬の総使用回数
稲	スクミリンゴガイ	1~4kg	収穫60日前まで	2回以内	散布又は 無人航空機に よる散布	2回以内
れんこん		4kg	収穫45日前まで			